

柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌

住所：川崎市麻生区上麻生 6-40-1

柿生中学校内

電話：070-1503-6401/044-988-0004

<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>

第 195 号

古老は語る
宮野薫さんのお話 2

岡上の人々と戦争（その 2）

（聞き手、筆録、コメント＝小関 和弘（柿生郷土史料館専門委員））

*（川井田地区の）K・E さんから聞いた話。中国で前線に向かう部隊の中に、偶然岡上の T・K さんが居て、生きて帰れるか分からないからと云って飴や菓子を買った。

・『特別講座「戦中・戦後の岡上を語り継ごう！」記録集』（麻生市民館岡上分館、2010 年）の「岡上出身 従軍者名簿」に拠れば、二人は半年弱の違いで昭和 15（1940）年頃に入隊し、T・K さんは中国南部、K・E さんは中国北部派遣の部隊に所属した。

*（岡上の M・K さんという）砲兵だった人から聞いた話。敵陣から激しく撃ってくるのでガス弾を発射したらピタリと止んだ。

・内閣府 HP の旧日本軍が中国に遺棄した化学兵器一覧には「きい剤」「あお剤」「あか剤」等の毒ガス弾が列挙され、順に「びらん剤」「窒息剤」「くしゃみ（嘔吐）剤」とある。山田朗「登戸研究所と日本軍の秘密戦」（『生物学史研究』2018 年、97 巻）は松野誠也『日本の毒ガス兵器』（凱風社、2005 年）に依拠して「日中戦争と毒ガス使用」を論じる。「東京新聞」2019 年 7 月 8 日朝刊に「部隊の公式報告書に当たる「戦闘詳報」を歴史研究者の松野誠也さんが入手」とあって、現地部隊へのガス弾配備は公文書で確認されていたが、「朝日新聞」2022 年 8 月 11 日朝刊には「毒ガス弾、旧ソ連軍へ放った 元日本陸軍 1 等兵が証言」との実戦使用の証言が掲載された。薫さんが記すこの話は「朝日」の記事に並び、実際に使った兵士による重要な証言と言える。



上から「105mm きい弾」「150mm あか弾」「150mm きい弾」。内閣府ホームページによる。

*I・E さんについて

岡上の親戚筋に当る大正 12 年生まれの I・E さんは昭和 19 年応召により海軍に入り巡洋艦「酒匂」の乗組員となった。

そこで上官が「E 君は高所に登れるか」と云われたので、家に居る時に屋敷の高い木に登って仕事をして何ともなかったのが「ハイッ大丈夫です」と云ったら高いマストに登らされ、木と違い揺れるのであの時は怖かったなと云ったのを覚えている。

その後沖縄特攻作戦で大和と共に呉軍港から昭和 20 年 4 月 6 日に撃出することになり、ああこれで俺も終わりかなと覚悟していたら、乗艦酒匂は出航取り止めとなり、呉に残ることとなった。翌 6 日、港を離れる大和に舷側に並び全員登舷礼で見送った。

大和は翌日 7 日、米艦載機の攻撃を受け沈んでしまい、あの時一緒に行っていたら俺は生きていなかったかも知れないと云ったのを聞いたが、全く人の運命は紙一重と云うがそんな感じを強く思った事だった。



敗戦後、武装解除された「酒匂」。砲塔には砲身がなく、艦首に星条旗が揚がっている。

・酒匂（全長 174.5m、排水量 6,651t）は 1944（昭和 19）年 4 月就役。作戦参加はなく、舞鶴で終戦を迎えた。その後は復員輸送業務や朝鮮半島出身労働者の帰国船とされたが、46 年 7 月にビキニ環礁でアメリカが行った原爆実験の標的艦となり沈没。大和は全長 263m、排水量 64,000t であった。（小学館『日本大百科全書』ほか）

・E さんの「屋敷の高い木」は禅寺丸柿。柿の収穫には竹製の「ばっばさみ」を主に使うが、樹上での作業もおこなわれる（柿生禅寺丸柿保存会『郷柿誉悠久』（2005 年）は写真複数を収載）。E さん自身の語り为上掲の『特別講座「戦中・戦後の岡上を語り継ごう！」記録集』に録されている。

・薫さんは大和撃出の日付を直筆「メモ」に正確に記しておられる。

（続く）

シリーズ
禅寺丸柿の歴史 5

近代における川崎市域及び横浜市北部地域での果樹栽培(5)

相澤雅雄(都筑・橘樹研究会会員)

柿生村の村名は禅寺丸柿に因む

明治 21 年(1888)4 月に法律第 1 号「市制・町村制」が公布され、翌年 4 月 1 日から施行された。上麻生村、下麻生村、王禅寺村、早野村、五力田村、古澤村、萬福寺村、片平村、栗木村、黒川村の 10 か村を以て柿生村が誕生した(明治 22 年『神奈川県公報』県令第 9 号)。岡上村は当初田奈村に編入する案があったが、村民は柿生村へ編入するほうが便利であると、旧村のまま存続させて柿生村と一部事務組合を組織し柿生村外 1 ケ村組合とした(『都筑郡々勢一斑』)。柿生村の村名は、文字通り柿の生産がすこぶる多いことを以て「柿生」と名付けられた。村役場は下麻生に置いた。初代村長は、上麻生の志村七五郎が就いた。大正 10 年(1921)末の村政に携わった役職者数は、名誉村長(無給)1、名誉助役(無給)1、収入役 1、書記 2、学務委員 10、区長 12、区長代理者 12 の計 39 人で行政運営を行っていた。大正 10 年における郡内の果実の総価額は、21 万 6,800 円に上ったが、このうち禅寺丸柿は 15 万 7,200 円と、総額の 72% を占めた。一部で富有や次郎の栽植が増えてきたがいまだ日が浅く、その産額は少ない状況であった。

川崎市は、昭和 2 年(1927)に田島町を、昭和 8 年に中原町を、昭和 12 年に高津町と日吉村の一部、橘村を、昭和 13 年に稲田町、向丘村、宮前村、生田村を、昭和 14 年には柿生村と岡上村を編入し、市域を次々と北部方面へと拡張していった(『川崎市史年表』昭和 43 年)。

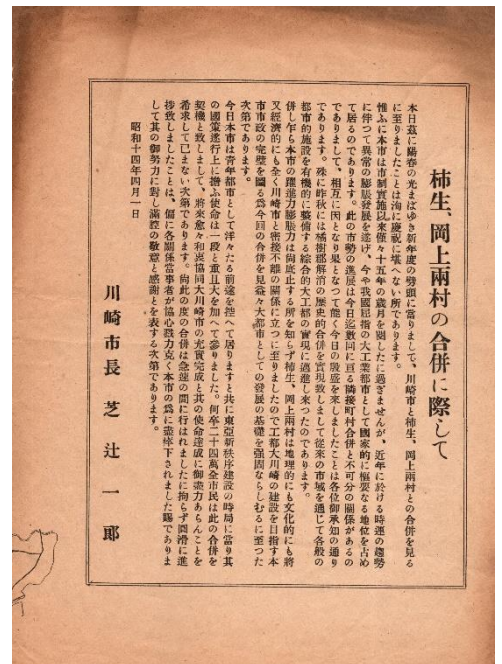
平成 2 年(1990)11 月に柿生村・岡上村誕生 100 年祭実行委員会は、地域ぐるみで 100 年を祝い、ふるさとの歴史と文化を伝えようと「柿生村・岡上村誕生 100 年」祭を実施した。祝賀会、ふるさと今昔写真展、記念誌の発行などの記念事業を行った。土地に住む多くの人々のふるさと意識の高揚を願った催しであった。

柿生村と岡上村は川崎市へ編入

昭和 13 年(1938)の年末に柿生と岡上の両村を、横浜市か川崎市のどちらかに編入させるという問題が起きた。同年 12 月 7 日に都筑郡町村長会は、横浜市への編入経過の説明及び合併協議をおこなった。同年 12 月 13 日に柿生村外一ケ村組合長飯塚重信は、「社会状勢ノ進展経済機構ノ発展ニ伴ヒ、地方自治事務ハ益々複雑煩劇(「繁忙」の意。著者の注)ヲ加ヘ、其ノ経営ヲ要スベキ事業愈々多キヲ加ヘントス、然ルニ元来其ノ資力欠乏シ、其ノ区域狭小ナル町村ニ於テ之ニ適応スベキ施設ヲ実行センコトハ誠ニ至難ノ事」として、川崎市編入を望む陳情書を川崎市に提出した(『川崎市史』1968 年刊)。同年 12 月 21 日に開かれた横浜市合併委員会では、柿生と岡上の両村に隣接する山内村、中里村、田奈村などは横浜市への編入が決定的となった。同 14 年 1 月 28 日に川崎市は、全員協議会を開き柿生と岡上両村の編入を検討した。この結果、「柿生村と岡上村の合併問題は留保する」との全員一致の結論に至った。柿生と岡上両村は、横浜市への編入にも態度を保留し膠着状態となった。同年 3 月 27 日に川崎市議会は、問題解決に乗り出した。柿生と岡上両村を川崎市へ合併させる方向で動いた。市議会は、合併承認の意見書をまとめあげて県知事に諮問した。翌日、県は「川崎市合併に異議なし」として、川崎市に答申した。柿生と岡上両村の住民の意志が反映された歴史的な結末となった。県が住民側の意志を尊重し、英断されたことも特筆すべきと言える。

昭和 14 年 4 月 1 日に川崎市長の芝辻一郎は、『柿生、岡上両村の合併に際して』の中で、編入を祝うとともに、本市が誕生して 15 年しか経過していないが、今では我国屈指の大工業都市に発展した。本市の発展は、これまでの数町村の合併により隆盛をみた。今回の柿生、岡上両村の本市への編入により、地理的にも文化的にも経済的にも、全く本市と密接不離の関係となった。工業都市川崎の建設を目指すとともに、ゆるぎない発展を強固にするための合併であったと述べている。

(続く)



昭和 14 年 4 月 1 日付「柿生、岡上両村の合併に際して」部分 筆者蔵

シリーズ
歴史の中の女性像

その1 ナイチンゲールの世界 (12)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

政府の衛生委員会の視察と病院環境の改善

ヴィクトリア女王から首相就任の大命を受けたパーマストン卿は、実働部隊と輜重部隊を分離していた陸軍の非効率を改め、両者を一体化した新陸軍省を立ち上げ、本国と戦地の意思疎通の円滑化に努めました。ハーバート大臣から引き継いだ、フローが要請してやまなかった本国政府による現地病院の視察は、まだ先送りされていましたが、戦地にも伝わる本国政府のやる気と改革の動きは、大いに期待の持てることでした。

1855年の1月、2月と、フローはスクターリの戦時病院でマネジメントに心血を注いでいました。そんなフローの忙しさを、ジャマイカ籍の医師兼看護師メアリー・シーコール女史が、彼女自身の自伝に記しています(『メアリー・シーコール自伝』飯田武郎訳、2017年、溪流社刊。彼女はジャマイカでクレオールと呼ばれた白人男性と黒人女性との間に生まれた子の3世。イギリス本国では蔑視されたが、ジャマイカでは中流階層に属し、白人に準じる教育を受けることが出来たため、英語の文章を読むことには不自由しなかったが、書くことは苦手だったそうである)。

「私は、クリミアのバラグラヴァに向かう前に、ミス・ナイチンゲールに会いたくて、スクターリの病院を訪ねた。看護師宿舎のある建物を訪ね、受付に現れたB夫人にミス・ナイチンゲール女史に充ててF博士が書いてくれた紹介状を手渡した。彼女はここで働きたいのなら今は空きがありません。スタッフの寝る場所も患者に提供しているくらいですから、私を求職者と間違えて応えたので、ともかく手紙を渡してくださいと頼みました。それから別の秘書らしい女性が現れ、手が空くまでお待ちくださいとの伝言を添えて、台所を兼ねた部屋に通され、待つように言われた。待つ間、出入りする看護師たちも他のスタッフも誰一人として音を立てず、しかもテキパキと仕事をこなしていることに感心した。ミス・ナイチンゲールに会えたのは、夜遅くになってからでした。…」

フローがスクターリの野戦病院の運営と管理に、早朝から深夜までフル回転で働いている様子が良くわかる、貴重な証言です。

有能で秘書役も兼ねる腹心の部下が間近に仕えている様子も分かります。ただフローの仕事は、夜も更けてのシーコール女史との面談で終わるのではなく、この後にランプを手に入院中の兵士たちの様子を見て回ることでようやく終わるのです。

3月に入って、パーマストン首相の肝いりで組織された衛生委員会が精力的に動き出し、スクターリの病院に調査団が視察に訪れました。現場の様子を見て一行は大変驚きました。視察団長はこう語ったと「タイムズ」誌の記事が伝えています。「我々はミス・ナイチンゲールの報告は大げさ過ぎると考えていた。しかしそれは大きな間違いだった。大切なイギリスの兵士たちをこんな環境に置いていたとは…」「これでもミス・ナイチンゲールが改善した結果だというのだから、当初の状態は想像もつかない…」視察団は、フローに何から手を付けるか相談し、まずは病院内の大掃除から始めました。汚れた下水は洗い流され、ノミやシラミの巣窟だった室内は徹底的に消毒され、ネズミや害虫の巣は取り払われました。水漏れの壁には漆喰が塗られ、トイレも作り直され、便器の数も大幅に増やすことが出来たのです。

こうして清潔になった病院の効果はてきめんでした。4月以降、入院患者の死亡率が大幅に減ってきたのです。具体的な数字は後に明らかになるのですが、衛生委員会の視察前の2月に42%弱に達していた死亡率は、環境改善後の4月には15%弱に、5月には5%に下がっていたのです。戦時病院での死者の大部分は、戦傷ではなく、病院内の不衛生によって蔓延する感染症(コレラ、赤痢、腸チフスなど)によるものだったのです。こうした事実気づいたフローにとって、この発見は次なる大きな仕事に繋がってゆきます。

(続く)



メアリー・シーコール
(1805~1881) ジャマイカ出身の医師兼看護師、クリミア半島のバラグラヴァに赴き、民間の立場で戦傷病の兵士の治療と看護に尽力した。



1854年当時のミス・ナイチンゲール

会告

小島一也氏没後十年 今小島氏の業績を振り返る
シンポジウム開催

- ◆ 開 催 日：11月17日（日）
- ◆ 会 場：柿生中学校 視聴覚室を予定
- ◆ パ ネ ラ ー：小島澄人氏（柿の実幼稚園園長）、板倉敏郎氏（元柿生中学校校長）
新井 悟 氏（教育委員会文化財課）、外 1名（交渉中）
- ◆ コーディネーター：小林基男（柿生郷土史料館）

皆様の参加をお願いします。

令和6年度 柿生郷土史料館友の会 会員紹介 (6月24日現在、順不同・敬称略)

本年度の「友の会」法人会員の皆様をご紹介します。当館の活動を支えていただき、深く感謝いたします。当館は地域の皆様のご支援とご協力により運営しております。

地 区	法 人 会 員		
上麻生	(医)総生会麻生総合病院	(株)飛鳥典禮	誠和産業(株)
	(株)ティエムコーポレーション	(株)富士建材	プライマリー(株)
	(学)柿の実学園	(有)鴨志田産業(まきば)	(福)柿生アルナ園
	(有)山義産業	(学)川崎青葉幼稚園	(有)柿生恒産
	小料理わかば	セラサ川崎柿生支店	リック設計企画(有)
	川崎信用金庫柿生支店	喫茶ベル	(株)スズユウ商事
	(株)とん鈴	(株)北島工務店	カサブランカ
	(福)柿生保育園		
下麻生	月読神社	麻生不動院	サイトー農芸
	中華料理福永	(有)麻生自動車	
王禅寺	王禅寺		
王禅寺東	琴平神社	(株)朝日ホーム	(株)観財
	(株)タカミ	(有)青戸建材	(株)エムケーププリント
王禅寺西	(有)アクティブ	ハートランド工房	
岡上	(有)ステップ・オン		
片平	長瀬土地家屋調査事務所	(株)Slow Farm	
白鳥	(有)法友		
栗木	(学)桐光学園		
はるひ野	(有)ユーコーポレーション		
多摩区	(株)フジ薬局		
町田市	(学)和光大学		

柿生郷土史料館 第93回カルチャーセミナー

ネパールの暮らしと文化

～40年通い続けるネパール舞踊研究家が
見たネパール今昔～

- ◆ 講 師：岡本真宥氏
(和光大学非常勤講師)
- ◆ 日 時：9月8日（日）
13時30分～15時30分
- ◆ 会 場：柿生郷土史料館（柿生中学校内）
特別展示室
- ◆ 参加費：無料。どなたでも参加できます。

岡本先生は、1985年からネパールに通い
続けておられる、日本のネパール文化研究



南部、古代ミティラ王国の地で暮らす先住民マデシの人々

の第一人者です。ネパールは、大変な親日国で、お釈迦様の生誕の地でもあります。そんなネパールのあれこれを皆様にご紹介いただきます。

柿生郷土史料館 開館日のご案内 【参加自由、入場無料】

- ◎開館日：8月3・10・17・24日（土曜日） 9月8・15・22・29日（日曜日）
- ◎開館時間：午前10時～午後3時